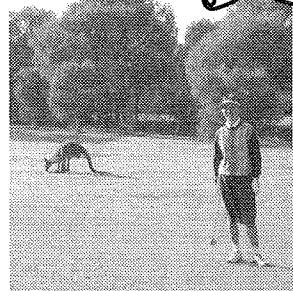
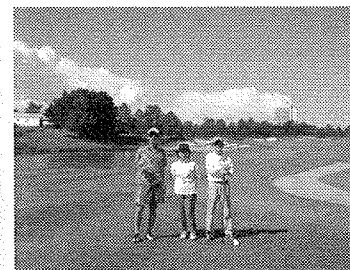
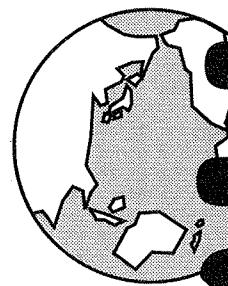


初春夢企画

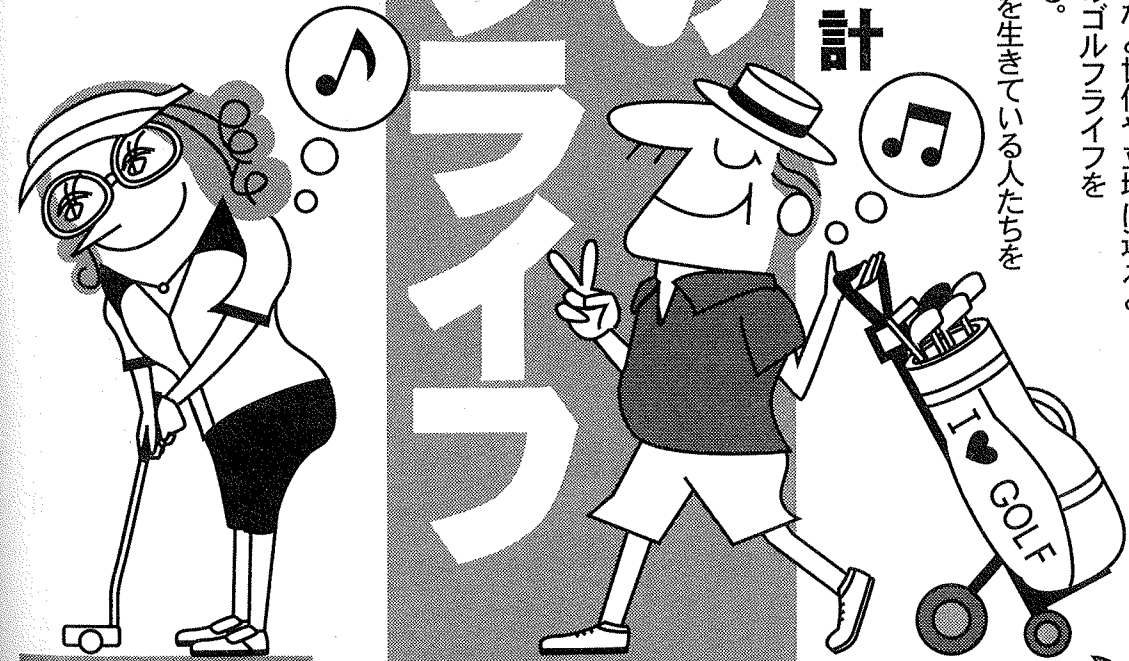
私たちのゴルフ人生設計



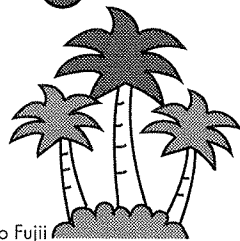
海外ロングステイ、シニアタウン移住、タイムシェア別荘利用、語学留学など世代や立場は違えど、いろいろなスタイルでそれぞれのゴルフライフをエンジョイしている人たちがいる。チヨッピリ羨ましい、ステキな今を生きている人たちを初夢気分でご紹介します。



羨 それぞれの ゴルフライフ



楽しき哉、我がゴルフ人生
What a Wonderful Golf World!



ILLUST / Akihiro Fujii

(ひまわり型) ロングステイ

早期退職後、日本とオセアニアを 行ったり来たり。 「夢は90歳までエージシユート！」

兵庫県 上木良平さん(58歳)

生活の拠点は日本に残したまま季節ごとに気候の良いところに滞在する「ひまわり型」ステイ。かの大橋巨泉さんが実践していることでもおなじみだろう。そんな羨ましい「ひま

わり型生活」を現行行っているのが、兵庫県宝塚市出身の上木(じょうき)良平さん。

上木さんは、今から3年前、約33年間勤務したソフトウェア関連の会社を早期退職。かね

てから念願だった海外でのロングステイを開始する。その際、滞在先を選ぶ基準はどこにあったのだろうか？

「まず四季があつて、ゴルフ環境が整っていて、温泉(それも露天風呂)があつて、加えて英語圏で治安がよく、医療面も充実していて、物価がそこそこ安く、日本との時差があまりないこと！」(笑) その結果、

ニュージーランドがベスト！」という結論に至る。以来、過去3年間でニュージーランドを訪れること6回。また「ゴルフ場の数・質とも申し分のない」オーストラリアには2〜3カ月程度の滞在を3回と、ひまわり型ロングステイを繰り返してきた。まさに羨ましい限りのゴルフ人生だ。

取材時は、友人が経営するロッジの管理人としてオーストラリアのゴールドコーストに3カ月の予定で滞在中。「実は、11月に立て続けにホールインワンを2回達成してね。今後の目標？ ニュージーランドと行ったり来たりしながら、エージシユートを達成することかな。一応、90(歳)のときに達成するという青写真なんだけど、あと30年も頑張らなくてはね(笑)」

遠大な目標に向けて、テニスなど他のスポーツも積極的にを行い、体力の維持に励んでいるというから真剣だ。

その一方で一番のお気に入りのゴルフスタイルを訪ねると、面白い答えが返ってきた。

「ラウンド後に露天風呂に浸かって風呂上がりには土地のワイン、もうこれが最高！ でも一番好きなのは、ニュージーランドの片田舎の市民コ



NZ・クィーンズタウンにあるケルヴィンハイツGC。世界でも有数の景観と「どのホールも湖に向かって打つ爽快感がサイコー！」

上木さんのオーストラリアでの平均的な1日のスケジュール

7:00	起床、すぐに朝食 合間をぬって 管理人業務
13:00頃~	送迎、清掃、買い物、 夕食の準備など ラウンド (週に3回程度)
16:00前後~	夕食の用意、後片付け など
24:00	就寝

ースで自然と調和しながらプレーすること。ゴルフ場と羊の放牧場が混在しているようなコースでゴルフの原点を感じつつ、羊を横目で見ながらティショットというのも、オツなものやで、ハハハ。飄々軽々と日々の生活を楽しんでいるなんとも洒落な御仁である。

「昨年秋、2度目のホールインワンを記録した」ロイヤル・バインズ・リゾート。「ANZレディーズ・マスターズ」のホストコースとして有名

